

とした。

6. *Puccinia porteri* Hino et Katumoto. 筆者等は 1960 年にこの菌を記載したが、既に Peck により 1874 年に *Arabis* 属植物に寄生する銹菌に対してこの名が与えられていた。*Puccinia porteri* Peck は現在 *P. thlaspeos* Schub. の異名として取扱かわれているが、筆者等の学名は later homonym であり、無効名となるので、新たに *Puccinia neoporteri* Hino et Katumoto と命名した。

○アカショウマの紅花品 (檜山庫三) Kozo HIYAMA: A new form of *Astilbe Thunbergii*

アカショウマで花の淡紅色のものがあって、1963 年の夏、東京都八王寺市梅ノ木平の奥の中沢で採集したが、この淡紅花品は近くの農林省浅川実験林内にもあると、同所的小林義雄氏から知らせて下さった。花序は美しいもので、園芸種のスパイレアにこのような花色のものがある。なお、アカショウマには花序が瘦せて貧弱なものトリアシショウマのように豊満なものがあるが、前者では花が雌性化の傾向にある。

Astilbe Thunbergii (Sieb. & Zucc.) Miq. forma **rosea** Hiyama, nov. f.

Inflorescentia rosea pulchella: sepala, petala, stamina et stigmata omnino rosea. Cetera ut in typo.

Nom. Jap. Usubeni-akashōma.

Hab. near Umenokidaira, Hachiōji, Prov. Musashi (K. Hiyama, June 25, 1963 —type in Makino Herbarium).

○シロバナレブンソウ (大場達之) Tatsuyuki OHBA: A white-flowered form of *Oxytropis megalantha*

北見礼文島の桃岩は海拔 250 m 許であるが、多くの寒地植物を産することで著名で、北海道指定の天然記念物ともなっている。ここでレブンソウの白花品を得たので記録しておきたい。尚レブンソウの常品の花色は従来「青紫色」として表現されているが、実際は濃紅紫色で、開花後日を経れば紫色が強く感ぜられるようになるが青色を帯びることはない。又玉川大百科辞典植物篇にレブンソウのカラー写真があるが、これはレブンソウではなく、礼文島でレブンソウと混じて崖地や崩壊地に多いチシマゲンゲである。

Oxytropis megalantha H. Boiss. f. **albiflora** Ohba, forma nova.

Flores albi.

Nom. Jap. Shirobana-rebunsō.

Hab. Hokkaido. Prov. Kitami: Ins. Rebun (T. Ohba, Aug. 9, 1956 —typus in SAP).